

鋼の成田氏に主査をやってもらうことになった。

2. 今後の活動方針として下記の点を検討した。

(1) ESR文献集第1集以降の継続調査

単行本、およびソ連文献関係も調査していくことにした。

(2) ESRに関する物性データについて

第4分科会でまとめた情報、資料を逐次第6分科会に提供してもらうことにした。

(3) ESWに関する調査

第5分科会の活動状況に合わせて調査の範囲、方法などを検討する。

(4) ESR以外の特殊精錬法に関する調査

隔年にまとめて報告することにした。

(5) 材質特性データについては最終年度に報告することにした。

書 評

「あなたにもできる熱診断」

(日本熱エネルギー技術協会編)

熱管理技術は終戦後間もなく 1950 年頃米国より導入され、鉄鋼業の近代化に大きく寄与して来たが、その後設備の近代化が一応完了した生産量拡大に重点が置かれるにつれて、熱管理の意義は相対的に低いものとなり、優れた技術者、作業員も少なくなっていた。しかし最近になり省エネルギーと公害防止の立場より熱管理の重要性はあらためて見直されつつある。

本書は設備および操業を積極的に改善していくという立場より書かれた実務の手引書であり、すぐれた啓蒙書である。熱診断を行うのに、目で見える方法、既設計器による方法、熱勘定(熱精算)の方法について説明をしたあと、具体的な改善点の発見の例をステンレスコイル溶体化処理炉について実例で示している。

熱管理に関する書物は多いが、記述が具体的であり、ていねいで判りやすく書かれている点で本書は出色のものである。現場の設備担当スタッフにとって手引書として、作業員にとって教育テキストとして有用であると思われる。工場管理者にも一読をすすめたい。

(大西 英明)

(B 6 判 207 頁, 日本熱エネルギー技術協会刊)

「鉄と鋼」特集号原稿募集のお知らせ

テーマ: 大型鋼塊の製造と加工

近年、扁平鋼塊、管条用鋼塊、ESR鋼塊、鍛鋼用鋼塊いずれにおいてもいちじるしい大型化が進められております。大型鋼塊の品質、加工、熱処理などの諸問題に関する技術の発展の過程の全貌が明らかにされ、つぎの発展への基礎を提供することを目的として特集号を刊行いたします。関連ある論文、技術報告のご投稿をお願いいたします。

記

1. 原稿締切日: 昭和 51 年 2 月 16 日 (月)

2. 原稿枚数: (論文)・本会所定原稿用紙(450字詰)図, 表, 写真を含め 50 枚以内(刷り上り10頁以内).
(技術報告)・本会所定原稿用紙 図, 表, 写真を含め 35 枚以内(刷り上り7頁以内).

3. 発行: 鉄と鋼 第 62 年第13号(昭和 51 年 11 月号)

4. 原稿送付先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 (電 03-279-6021)

(投稿に当つては、原稿表紙に「鉄と鋼」特集号と朱書き下さるようお願いいたします)